



めんどり通信

発行めんどりの集い(愛児・子喪失家族連絡会) 発行責任 橋本明子

悲しみの分かち合い20年目へ

~~~~~集いを再開します

みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

1993年5月の母の日が最初だった集いは、この4月で満19年を経過、今年は20年目への日々となります。この“ふた昔”の歳月には阪神淡路大震災、アメリカの9.11、そして昨年の東日本大震災を含むたくさんの災害や事件がありました。

集いは、昨年の3月の後にも開催しようとしたのですが、結局いままで行えませんでした。理由は様々ありますが、災害規模のあまりの大きさに圧倒されていた、というところがいちばん適切な心情かもしれません。

いま、ちょうど震災発生から1年が過ぎました。

ここで、集いを再開します。良かったらご参加ください。

1年が過ぎて2年目に入るということは、仏事でいえば一周忌にあたります。

既に一周忌が過ぎた方は思い当たるはずですが、厳しい日です。それは、あの瞬間を再び超えるということですから。

それまでの1年は「ちょうど1年前の今日は、あの子が居た、あの子に触れた」のでした。しかしその日を境に、あの子を喪ってからの時間をなぞっていきます。

ほんとうに「悲しみを悲しむ」のは、ここから。しかしもう既に何回も「もう落ち着きましたか？」と尋ねられた経験も多いと思います。

ここにきて集いを再開するのは、東北の支援を直接めざそうということではありません。悲しみを生きているのは震災やその後、震災以外の理由で子を喪った人ばかりではないから、ということもあります。東北へ、東北では、東北から、という言葉があふれているから、それ以外の地域のために、ということも多少あります。

でも結局は、私達の分かち合いになにか意味があれば、それがまた東北支援になるかもしれない、という期待です。

この集いは「同じ想いを分かち合う」という時間の過ごし方なので、それが適切と感じる人にご参集いただけたら幸いです。

ここまでの19年間の分かち合いは、最愛の子を亡くした親同士が集い「それぞれが心ゆくまで語る」だけでした。そして20年目へ。同じです。解析されたりケアされたりではなく、誰もが自分の想いを語り、皆がうなずくだけです。

それでも、「無理、今はとても話せない」人は、ただ泣いているだけでもかまいません。

亡くした理由、亡くなった子の年齢、亡くなってからの年月も、問いません。

平日の夜ですが、どうぞいらしてください。ご夫妻でも、どちらかお1人でも。

お待ちしております。

代表 橋本明子

開催 2012年4月25日(水) 午後6時半～(1時間半程度です) 東京・市ヶ谷番町教会

参加費(お1人およそ1,500円以内)

お電話ください 地図と会議室の案内をお送りします。

➤めんどりの集い <http://www5f.biglobe.ne.jp/~hiroba/mendori/index.htm>

(血液情報広場・つばさHP <http://tsubasa-npo.org/> 内の「仲間・リンク」にあります)